

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここいろ なんと			
○保護者評価実施期間	令和7年1月24日 ～ 令和7年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	令和7年1月24日 ～ 令和7年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から公園や図書館、お店など地域資源を活用した外出活動の機会をつくり、施設や公共交通機関の利用や人との関わりなどを通して、さまざまな社会参加の経験を積めるようにしている。	外出先に実際に行くことを通じて、その場の雰囲気を感じたり、行く先に応じたマナー（図書館では静かにする、公園では遊具の順番を守るなど）を学んだりできるようにしている。	これまで行ったことのない施設などにも出かけ、行先が固定化しないようにする。また、地域の子どもたちとも交流できる場に行くことで、同年代の子どもたちと関わる機会を増やしていく。
2	地域スポーツ指導員の資格をもち、水泳指導の経験がある職員が主導し、プール活動を行っている。プール活動を通して、触覚や平衡感覚などの感覚を刺激し感覚統合を促したり、体力や運動機能の向上を図ったりしている。	安全に配慮し、グループ分けをして少人数でプール活動を行っている。また、子どもたちの状況に応じて、水に慣れる活動やクロールの練習などの活動内容を設定している。	水に顔をつけられる、25m泳げるなどのスモールステップの階級をつくり、子どもたちにとって目標を明確にしたり、モチベーションを高めたりできるようにする。また、現在は長期休暇中の活動が多いので、平日にも活動できないか検討する。
3	外部から講師を招き、絵画教室を行っている。さまざまな素材や色彩を使うことで視覚や触覚などの感覚が刺激されるようにしている。また、絵を描いたり造形したりすることが微細運動を行う機会となっている。	絵を描くだけでなく、段ボール遊びや紙粘土を使った造形など多様な活動を行い、石や木の枝、布など紙以外の素材も活用し、さまざまな材質の質感を感じられるようにしている。また、講師のアトリエで絵画教室を開催し、野外で草花を摘み作品作りに使うなど、自然と触れ合う活動も行っている。	今後もさまざまな素材を使って感覚を刺激できるよう、絵画教室の内容を講師と検討する。また、作った作品を外部の方にも見てもらう機会をつくり、地域交流を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	悪天候時の外出先があまりなく、外出できないときに事業所内で活動するプログラムが少ない。	外出活動をプログラムの軸としてきたため、事業所内でできる活動について職員間で立案する機会が外出活動について立案する機会よりも少なかった。	身体を動かすことが好きな子どもが多いため、悪天候時には事業所内でも身体を動かせるように平均台やトランポリンなどの用具を使ったプログラムを行うようになった。また、個別の療育により取り組めるよう子どもに合った課題を作成・提供したり、集団遊びを増やしルールの理解や協調性を育てるプログラムを実施したりしていく。
2	地域の子どもたちと一緒に活動するイベントに参加することはあるが、地域交流の機会の頻度が少ない。	外出活動時に、出かけ先の店員や職員にあいさつをする機会を設けているが、一緒に何かするといった交流まではできていない。また、近所の児童館は学童としても利用されており、事業所として児童館を利用することが難しいとのことだったため、利用したことがない。	利用できる児童館へ出かけ、地域の子どもたちと交流する機会を増やしていく。また、地域で開催されるイベントなどにも積極的に参加し、地域交流を図っていく。
3			